

十字架 パート2 「完了した」 ヨハネ 19:25-30

1. 兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻マリヤとマグダラのマリヤが立っていた。イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子とを見て、母に「女の方。そこに、あなたの息子がいます」と言われた。それからその弟子に「そこに、あなたの母がいます」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った。(19:25-27)
 - a. 十字架の痛みと恥に耐えなければならなかった、というだけでなく、さらにむごいことにそれは母親の目の前で行われた。イエスが十字架にかけられた時その場にいた母マリヤは、この悲惨で不当な行為の証人となった。
 - b. ヨハネは3人のマリヤの名を挙げていることにお気づきだろうか。これがただの偶然なのか何かのメッセージなのかは明白ではないが、私はヨハネが何らかのメッセージを伝えなかったのではないかと思う。
 - c. 極限状態の肉体的、精神的、霊的苦痛の中にあっても、イエスが冷静に母マリヤの世話について気遣っているのは驚くべきである。イエスは不当に処罰されることにより世の罪を背負ったが、それでもなお罪のないお方であり、特別な愛を示し続けることができるお方である。
2. この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、「わたしは渇く」と言われた。そこには酸いぶどう酒のいっぱい入った入れ物が置いてあった。そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソプの枝につけて、それをイエスの口もとに差し出した。(19:28-29)
 - a. イエスは十字架上で世の罪のために痛みと苦しみに耐えながらもひと時として聖書のみ言葉とご自身について書かれたことを成就するという目的をお忘れになっていない。「わたしは渇く」は詩篇 22:15、あるいは詩篇 69:21 の成就である。
 - b. ヨハネは福音書の中で少し横道にそれながらもイエスが成就された預言をたびたび指摘している。この章だけでも、イエスが成就された「着物が分けられる(24節)」、「わたしは渇く」(28-29節)、「彼の骨は砕かれなかった(36節)」、「突き刺され、十字架による死(37節)」が記されている。
 - c. 福音は初めから、イエスが「モーセが律法の中に書き、預言者たちも書いている方(1:45)」で、「彼らすべてが証言している(5:39)」お方であることを告げており、特にヨハネはイエスについて書かれイエスが忠実に成就した預言として「神への熱心(2:17)」、「エルサレム入城(12:12-16)」、「人々の不信仰(12:37-40)」、「裏切り(13:18-19;17:12)」、「理由なしに憎まれる(15:25)」などを挙げています。
3. イエスは大声で叫んで、言われた。「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。(19:30)
 - a. イエスが成就された預言について見てきたが、イエスの最後の言葉「完了した」は、ご自身について書かれた記述すべてが成就されたという宣言ではない。イエスについて書かれた預言の中にはまだこれから成就されるものもあり、それらはイエスの再臨の時に完了する。
 - b. 「完了した」とは罪によって人類に要求されたものすべてが満たされたというイエスによる法律的な宣言である。私たちを罪と死の束縛から解放するために必要とされたものはすべて成立し、完了し、代価は支払われた。
 - c. イエスの死は人類の罪を贖った。イエスが十字架上で完了したことが人類が神と和解する過程そのものである。来週は復活の意味について考えてみる。